

# 平成27年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定				アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	
各項目にねらいを定めた取組の計画・実施				アンケート項目や各種指標の設定	
取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果
1	確かな学力	基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る教育	・朝読書の完全定着 ・毎月の読み聞かせ実施 ・研究授業の実施	・生徒アンケート「普段からよ読書をしている」 ・毎月、地域のボランティアによる読み聞かせの実態 ・研究授業の成果	・「普段からよ読書をしている」傾向のある生徒が約半数 ・毎月、地域のボランティアによる読み聞かせ実施 ・年間3回の研究授業を実施
		言語活動を取り入れた授業改善	・各教科での言語活動の充実及び発表会等双方向での言語活動の実施	・学習確認プログラムの結果 ・生徒アンケート「友達の前で自分の意見を発表することは得意だと感じている」	・国語「話すこと・聞くこと」領域において、全学年全市平均を上回る。 ・肯定的回答が、第2学年が最も高く、5割を上回っている。
		総合的な学習の時間の充実	・ポスター発表(セッション)や体験活動を通しての学びの充実	・探究活動や体験を通じた活動から得たことのポスターセッションの成果	・3学年ともがポスター発表やポスターセッションを実施し、2・3学年では外部にも公開することができた。
2	豊かな心	人権を尊重する心の育成	・道徳や特別活動、総合的な学習の時間の工夫	・生徒会アンケート「あなたは普段から周りの人に優しく接していますか」	・肯定的な回答が90%を越えている。
		学校規律の醸成	・毎朝の挨拶や声かけの取組	・生徒会アンケート「挨拶は相手の顔を見て大きな声でしていますか」	・肯定的な回答が84% ・保護者アンケートにおいても「しっかり挨拶ができています」と感じている方が85%。前期調査より少し増えている。
		自己有用感を感じさせる取組の充実	・C・G・H活動の取組 ・生徒による「自主企画・自主運営」の手法の徹底	・生徒アンケート「みんなで協力して何かをやり遂げてうれしかった。」	・肯定的な回答が90%
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立	・早寝・早起きや携帯・スマートフォンの弊害についての呼びかけ	・生徒アンケート「毎日、同じくらいの時刻に起きている」 ・生徒アンケート「普段、よく携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている」	・肯定的な回答が92% ・肯定的な回答が64%
		運動する機会の充実と体力向上	・生徒全員入部制の部活動の充実	・生徒全員入部制の状況 ・学年スポーツなどの企画実施状況	・生徒全員が入部 ・学年・学校全体の体育的行事の自主企画・自主運営による実施
4	独自の取組	小中一貫教育の推進	・小中合同授業研修会の実施	・組織的な小中連携体制	・年2回の合同授業研修会を実施。 ・SSH事業での交流実施
		家庭・地域・学校(保幼小中)との連携	・西院デイケアの実施 ・西院ふれあいコンサートの実施 ・中学生の保・幼・小への読み聞かせの実施	・各取組の実施状況や感想	・各取組とも実施。 ・地域及び保・幼・小との取組後の感想は上場
		キャリア教育(国際理解教育を含む)の充実	・異文化理解・国際理解教育の充実 ・地域での職場体験	・韓国姉妹都市との交流学習の実施状況 ・職場体験実施後の感想	・フジテレビによる異文化理解と姉妹都市との作品交流実現 ・地域の一員としての自覚や生き方の探究につながる職場体験の実施

学校名( 京都市立西院中学校 )

自己評価	
評価日	平成28年2月19日
評価者・組織	学校評価委員会
分析(成果と課題)	・「宿題をきちんとしている」と答えた生徒が90%に対し、「自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた生徒は53%である。 ・「普段、よ読書をしている」と答えた生徒が51% ・各教科において言語活動の充実を力に注いでことにより、授業内容の改善や学習確認プログラムにおける結果から、少しずつ効果が表れてきていると考える。 ・授業の中で自分の意見を述べたり、他の意見と比較してより良い答えを導き出すために、基礎的な知識の充実を図るとともに自主的な学習の工夫を推し進める。また、問題解決や論理的思考の姿勢から主体的な学習意欲を喚起する。 ・朝読書など、落ち着いた環境での読書活動はある一定の効果はあると思われるが、より主体的な活動につながるよう、取組の継続と工夫を要する。
自己評価に対する改善策	・地域や社会と連携した体験活動で感じること、自らの言葉で表現する場を充実させて、自己有用感をもつ機会を増やす。 ・規範意識の確立においては、生徒会活動などをより充実化し、生徒の自治活動を高めしていく。 ・年々受け継がれていく活動において、伝統の継承とともに、自尊感情を高める。

学校関係者評価	
評価日	平成28年3月1日
評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・生徒が地域ボランティアによる読み聞かせを落ち着いた雰囲気の中で聞いている態度が、生徒の情操教育に繋がっている。ぜひ、今後の継続を望む。 ・朝、学校全体で落ち着いた雰囲気の中で読書することは今後も大切である。 ・学力については、キャリア教育の視点で、将来に生きる力をつけるよう、今後も工夫して進めて欲しい。 ・ポスター発表で自分の考えを堂々と発表できることは素晴らしいことである。ポスターセッションの方法や内容をより充実したものになるよう努めて欲しい。	・読書の習慣化については、今後も地域と学校が連携して協力していきたい。 ・ポスターセッションなどの取組において多く保護者や地域の方々の参加をし、より生徒達の意識を高めることに繋げていく。 ・読書の習慣化については、今後も地域と学校が連携して協力していきたい。 ・地域や学校などで、大人も気持ちよく挨拶をしていくことで、子どもたちへの良い見本となるようにしていきたい。 ・地域としても学校運営協議会として、西院の子どもたちを共に育てる意味で、連携、協力をしていきたい。
・登下校時に気持ちの良い挨拶をしてくれる生徒が多いことはいいことである。もっとも全体に広がるような働きかけを進めて欲しい。 ・学校に行くのを楽しんでいるいない生徒がいることに目を向け、学校・地域が一体となり考えていくことが大切である。 ・厳しい規範意識を持っていることがすばらしい。さらに広く社会に目を向けてたくましい心が育って欲しい。	・スマートフォンなどの利用が増加する中で、大人の目の届かないところでのLINE等でのトラブルが発生していることが懸念される。使わないという指導より正しい利用についての指導が必要と思われる。
・小中の授業内容を参観したり、小中各教科での取組等の情報交換をすることが、大いに参考になるという意見がある。 ・地域との連携を吹くんだ総合的な学習の実施が複数学年のポスターセッションへとつながり、双方方向による言語活動となった。 ・C・G・H活動の質の向上を図るため、より一層、意義や目的を明確にして、全教職員で支える体制を強化する。	・SSH事業における小中連携の一つとして、中学生が小学成にポスター発表の仕方などを伝えることができた。今後も、より計画的・組織的に活動内容の工夫を図るとともに学びの連続性を活用した研究や研究協議の機会を増やす事で、9年間を見越した視点を深める。 ・より開かれた学校学校づくりにつながるよう、学校だよりやホームページ等での情報の提供を心がけるとともに、保幼小中・地域、お互いが連携すること意識がもてるような情報の発信を今後も行う。
・今後も小中一貫教育を大切に進めていって欲しい。 ・自主企画・自主運営による取組を継続し、生徒の自己有用感が高められるように更に工夫をしていって欲しい。 ・地域での職場体験が生徒の地域での帰属意識を高めるとともに、地域が中学生の力を必要としているという認識を高めて欲しい。 ・個人情報等の保護をしつつ、学校だよりやHPなどでうまく家庭や地域に発信を続けて欲しい。	・自然災害・事故・非行防止などについて、地域と連携している取組を今後も続けていけるようにしたい。 ・防犯について、積極的な声かけなど地域でできることを進めていく。

## 4 総括・次年度の課題

- ・言語活動の定着や小・中・高の連携による探究活動などの取組についてはある一定の評価を得ることができた。更に内容の充実を図り、取組の推進を進めていく。
- ・学力の向上を図る上でも、9年間を見越した教育・指導ができるよう、更に小中での連携を組織として進めていくことが大切と考える。
- ・自主企画・自主運営を活かした取組は集団や生徒一人一人の力を伸ばすことに繋がった。今後、より広い視野を意識した取組に繋がるよう、指導を心がける。
- ・次年度に向けて、学校運営協議会がさらに深い話し合いを進め、活性化できるような工夫をする。
- ・今後の小中における生徒数の推移を鑑みて、教育環境を整えていけるようにする。